



● 草の根パートナー型

平成21年度第一次補正予算による草の根技術協力事業 緊急経済危機対応-フォローアップ型採択内定案件

I. 提案事業の概要	
1. 国名	ラオス
2. 事業名	ラオスにおける読書推進運動の自立的運営の定着化
3. 事業の背景と必要性	<p>I. 先行事業</p> <p>当会はラオス国立図書館の国家読書推進政策「全国読書推進事業」に1992年より協力し、学校での図書活用を促進してきた。また、2005年12月より草の根技術協力事業にて「ラオスにおける読書推進運動の自立的運営のための拠点構築事業」を実施。配付対象地域の50%以上の学校で図書室を自主的に運営できており、読書推進運動を自立的に担う人材が育成されるという事業目標を達成した。</p> <p>II. 課題</p> <p>数値的には目標を達成しているが、これまでの実施内容は量的な部分でのカバーであり、質的には以下のような改善すべき課題がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校での図書利用の時間が少ない ・図書の内容を読解できていない子どもが多い ・読書推進センターの活動が定着していない
4. 事業の目的	学校での図書活用方法の指導や、読書推進センターの活動安定化により、読書推進活動が継続的に実施される体制を整えることを目的とする。また、将来的には、対象地域で読書をする人口が増加することを目指す。
5. 対象地域	ヴィエンチャン県、チャムバサック県、セコン県、ボーケオ県
6. 受益者層	対象地域の小学校30校の児童、教員、地域住民 対象地域の教育指導官29名
7. 活動及び期待される成果	<ul style="list-style-type: none"> ・研修、学校訪問の同行などの活動により、郡の教育指導官が学校の読書推進活動をサポート出来るようになる ・ニーズに適した図書の配付や学校図書管理委員会などの設置により、学校での図書活用が促進される体制が整う ・学校訪問での直接指導により、教員が学校の授業で図書を活用する ・教育指導官に対するセミナー等の実施により、ヴィエンチャン県の読書推進センターの活動が継続的に実施される。また、ヴィエンチャン県以外の対象地域に読書推進センターの活動を担う拠点が機能する
8. 実施期間	2010年3月～2012年1月（1年10.5ヵ月）
9. 事業費	14,988千円
10. 事業の実施体制	カウンターパート機関：ラオス国立図書館、教育省普通教育局、配付対象地域の教育局
II. 実施団体の概要	
1. 団体名	特定非営利活動法人 ラオスのこども
2. 活動内容	<ol style="list-style-type: none"> 1) ラオスにおけるラオス語図書、絵本等の印刷出版、普及活動 2) ラオスにおける情操教育の普及、整備事業 3) ラオスの識字教育、情操教育を担う人材育成事業 4) 日本国内におけるラオス文化の紹介